



ライオンズ国際協会 336-A 地区 2R 3Z

伊予土居ライオンズクラブ

2007年1月号 会報誌



『全員参加で楽しく愉快な例会』

2006～2007年度
■スローガン■

ニツ岳 1,647m (1月15日)



年 始 ご 挨拶



会長 鈴木 富男

“光陰矢の如し”と申しますが、まさにその通りで早い物で今期も半分が終わりました。みなさんのご協力のおかげで、クラブの事業も順調に進める事ができました。これも一重に第一、第二副会長 始め各委員長のおかげと感謝申し上げます。今期のスローガン「全員参加で楽しく愉快的例会」と題してスタートしました。振り返ってみますと私の予想以上に満足いく例会が行なわれているように思います。これからもよろしく願い申し上げます。



第一副会長 長尾 嘉也

新年あけましておめでとうございます

今期は鈴木富男会長の『全員参加で楽しく愉快的例会』スローガンのもと計画通り折り返し点を通し重大行事も後1つだけと順調に経過しており誠に喜ばしいことと思います。

30周年の大きな節目の後だけに気抜けしないかと心配していましたが、会長の強いけん引と会員皆様のご理解と多大なご協力で一段楽しいクラブ運営になっていると実感しています。

各委員長さんの指揮のもと活発な委員会活動が大きな原動力となり今まで以上に和気藹々とした雰囲気理想に近いクラブ運営がされていると思います、委員長の個性を生かし会員の皆様が参画意識を持ち一丸となって楽しく活動して行く、これが『伊予土居ライオンズクラブの伝統』になるように頑張りたいと思っています。



喜井 孝一

2007年1月元旦 明けましておめでとうございます。

幹事を受けて、早 半期が終わりました。

鈴木会長中心にクラブ員の絶大なるご協力を得て、順調に奉仕活動が進んでおります。

あと残された半期を更に充実した「楽しい例会」をしていきたいと思ひます。

又、3月にはCN例会 純出席100%達成実現の為に、クラブ員お一人お一人の御協力をよろしく願ひします。



榎部 邦寛

「2006年 年初の抱負を振り返って」

私の年初めの抱負は下記の通りでした。

「やればできる！ 価値ある例会」

新年あけましておめでとうございます。我が伊予土居ライオンズクラブは、今年、結成 30 周年記念を迎えております。皆さん方の協力なくして成功はありません。宜しく願ひ致します。

「やればできる！ 価値ある例会」については、自分自身では「やればできる！」のつもりでしたが、他人の評価は厳しく「どじょう搦り」を評して「やらせばできる」だったようです。

結成 30 周年式典に於いては、ご存知の通り皆さん方のご協力のお陰で「大成功」で、リジョン内に土居クラブのパワーを印象付けた式典と懇親会を開催することが出来ました。本当にご協力ありがとうございました。



山内 貢

「年初の抱負を省みて」

忘年：新年・・・年の瀬を迎えると忘年という言葉をよく耳にするが、過ぎ去った事は忘れようと云う人生の進歩を促す格言の一言でもある、ただし忘れる前に反省が必要です「忘れなければならない事を少なくする為に」新しい歳を迎える前にしっかりと心の整理ができた忘年になったでしょうか？昨年一年間を振り返ってみて満足度はどうであったか？ではなく消化不良が如何程であったかが問題ではなからうか、(仕事のこと、私的なこと、ライオンズクラブのこと)ここで私は敢えて伊予土居ライオンズクラブの一年間を簡単に振り返ってみよう、先ずは3月

にはクラブにとっては重要な節目である30周年の記念業事が全会員協力の下成功裡に完了したことは内外に示す伊予土居ライオンズクラブの歴史の誇りとしよう、2つ目には新会員多数の入会が有りクラブに活気が戻りつつ在ると云う事、こうした昨年の経過を踏まえ今年は30周年の歴史を持つクラブに相応しい中身の充実に力点を置く年にしたいものです、一言で云ってライオンズの誓いを地で行く集団を目指すことであります、クラブ員としての基本的なことをお互いに再認識し自己の意識を高揚さすことで目的が達成されるものと確信するものであります、「意識して我れらが創る良い社会」・・・



石丸 敏裕

2006年 年初の抱負を振り返って

1年前、「平成18年の新年を迎え思うこと」と題し、抱負を会報誌にご披露しました。その内容は、「気働きを尽くすことにより、最良の人間関係を作る」ということでした。

実は、これは1年間に限定した抱負ではなく、私の永遠のテーマだったわけで、当然今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。

「気働き」について、辞書には「機転」というふうに解釈してあります。勿論、同義語なわけですが、微妙にニュアンスは異なっているような気がします。「気働き」は、どちらかといえば人間味のするイメージ、そして、「機転」は、シャープなイメージとして私は捉えています。

今年、この「機転」にこだわっていきたいと考えています。「機転を利かす」ためにはまず、「段取り」が大切です。「仕事は段取り」「商売は、間と気働き」結局これが結論なわけで、それを実行・実現していくことが、これからずっと私の目標です。



越智 滋

年頭に当たり

新年明けましておめでとう御座います。皆様お健やかに良いお年を迎えられたことお喜び申し上げます。

さて、年も改まり、昨年の念頭の目標を総括し今年の目標をとのことであります。私62歳になり最近少しずつ記憶力、身体能力の低下が気になりだして来ました。そのおり昨年は丁度、相田みつを氏作の“つまずいたおかげで”との詩が私の心に強く響き、掲載をいたしました。今回再度会報誌を読み返して見ますと、まだまだあの詩の域には到底達していないなと感じ

ました。もっともっと勉強と努力が足りません。

自分の欠点をわかっている、直そうと思っても中途半端に流れてしまう。もうすこし物事に対して筋道を立て、行方を見通して行動したい。今年それを少しでも改善し実践してゆきたい。有言実行。





近藤 虎雄

今年もあと僅かと成り新しい年を迎える。

私の様に型の古い人間は、今でも新年が近づくと自分は又一つ歳をとると云ふ昔の習慣が脳によみがえってきて、さて幾つに成るのか一寸とまどう年令に成って来た。

歳の数え方は西洋風に満年齢で数えるように成ったのは確か戦後である。私は年令が満年令に変わった時新年を迎えても年令が据置に成って自分の誕生月の五月迄は、同じ歳であるのが何だかふに落ちず、まるで学校で落第させられた様な気がして以来、年令は正月が過ぎると必ず一つ加算して数え年で発表する事にして居る。自分の錯覚かも知れないが、日本人

が正月に歳をとらなくてなってから精神年令が退化して来た様な気がしてならない。

そうわ云ってもいつの間にか少子化社会が進み見渡せば老人ばかりが目立ち、平均寿命が世界一に成って長寿を愉しんでばかり居る時代でもない中で、自分は土居ライオンズクラブに在籍したお蔭ですばらしい仲間達と年令を気にせず相互理解のきずなで友情を深めながらクラブ活動が出来る事は何より有難く感謝するばかりだ。我がクラブには幸い大先輩の相引先生は来年は九十歳と云ふ老い上手の天才も居られ、益々お元気でクラブ活動にも積極的に参加され御指導頂く姿に感動し、我々も共に土居ライオンズクラブ活性発展の為に頑張っ行き度いと念願をして居ります。 来年もどうぞ宜敷、御願い申し上げます。十二月十七日



森高 康行

年初には、とにかく地元行事を増やし、公務会合もなるべく地元を優先しようと決めました。ライオンズクラブの会合が公務会合と往々にして重なり欠席がちだったのが悔やまれますが、県政報告会 50ヶ所で千人との対話を成し遂げ公務会合も 65 回と地元密着の一年でした。合併後の諸課題を訴える声も多く聞かせていただき、災害への不安や農業基盤整備、さらに若者対策などの課題もありました。

今一度ふるさつを見つめ、住民との膝を交えた対話に努めた一年でした。

本年は一月の知事選挙、四月の県議選挙、そして七月の参議院選挙と選挙の年となります。

皆様も参加と協力を求めたいと思います。



大野 進生

新年の抱負

昨年の年初の抱負は“時間をつくってライオンズクラブの活動に少しでも参加する”が目標でした。昼の例会は出席の調整が取れないこともありますが、清掃活動や委員会、その他の活動は自分のなかでは多少参加できたので良かったと思います。又会員の方々と色々な会話が出来たことうれしく思っています。今年も様々な活動を通して先輩方の経験談や質の高い会話の中で自分自身の成長に繋げて行きたいと思います、本年も宜しくお願いします。



相馬 紀夫

盧溝橋の事件(18.12.20)

2006年(平成18年)の抱負を振り返ってとのテーマであるが、去年は犬の糞の始末をしない公德心の欠如を嘆いたと思うが、平成18年は少しはましになったと思いたいが、相変わらずの世の中である。さて話は飛躍するが、平成19年は日本の歴史を正しく、他国に阿ることなく、日本人の常識を持って欲しいと願っている。そこで先ず手始めに盧溝橋事件なるものの正しい歴史を述べて見たい。何時も切手の話で恐縮ですが、先日台湾(中華民国)発行の切手の中に、1974年(昭和49年)第20回軍人の日記念として、「盧溝橋の戦役」なる切手を見つけた。1974年当時は、蒋介石が中華民国の総統として台湾を支配していたので、この様な切手が発行されたものである。



そもそも、盧溝橋事件とは何ぞ起こったかから説明しなければならないのではないかと思う。盧溝橋は北平(北京)の西15キロほどに位置し、永定河なる河に架かる橋である。かのマルコポーロは1274年に中国・元を訪ねその際に書いた「東方見聞録」の中で、世界で最も美しい橋と称えて居ります。そこで事件が起こったのであります。当時、日本軍が中国に駐屯していたのは、北清事変(義和団事件)が起こった後に清国が各国に対し(我が日本を含む)駐兵権をみとめていたのであり、それに基づいて盧溝橋付近に駐屯していたので、決して侵略して駐屯していたのでもありません。さて、そこで支那事変の発端となった「盧溝橋事件」は、昭和12年7月7日の夜の事です。今までは、日本の教科書・朝日新聞初め左翼の輩は、中国(北京政府)ではもちろん、「盧溝橋事件」は中国を侵略するために日本軍が、仕組んだ事件であると騒いでいるが、事実全く逆であります。当時蒋介石軍と日本軍は、盧溝橋を挟んで対峙してはおりまはたが、争う必要はなかったのです。しかし、当時支那の国内では内戦状態で、蒋介石率いる国民政府と中国共産党・中共は戦って居りまして、中共軍の劣勢は明らかな状況で有りました。そこで中共軍は起死回生の謀略を仕組み、日本軍と国民政府軍を戦わす為に、深夜盧溝橋の日本軍と蒋介石軍双方に不法射撃をしたのです。陰謀は当に成功し、日本軍と国民政府軍は戦いを始めたのであります。やがて、日本は支那事変に巻き込まれ、大東亜戦争につながり、ついに敗戦に至ったのです。後になり、中共軍の劉少奇達が、不法射撃を実施し、後ろでスターリンのソ連共産党の命令が有った事が分りました。つまり、支那事変・盧溝橋事件の真犯人は中国共産党・ソ連共産党なのです。にもかかわらず、二言目には侵略国・日本など喚びている中国・ロシア・韓国・国内の左翼・とりわけ朝日新聞・NHKに対し、断固とした態度で望む必要が有ります。ついでながら中共からも「盧溝橋事件」の切手が出てますので、掲載しますが、実際には居るはずのない共産軍が盧溝橋を守っている様な嘘っぱちな構図です。中国・共産党はまともな事を云わない、いや伝えない国である事もこんな小さな切手からも伺えます。



大橋 勝英

今年は愛媛県下のL.Cの受動喫煙防止を推進したかったが、多忙にて時間が割けなかった。来年は頑張りたい。受動喫煙はアスベストを吸うより危険。喫煙者は非喫煙者に配慮しなければならない。吸う自由はあってもどこへでも吐く自由と他人を障害する自由はないのです。



種子島探訪(第二回)大橋勝英

南蛮人入港から12日目の9月9日、時堯による鉄砲試射が行われた。家臣や南蛮人の異様な視線の中、轟音とともに五分板の標的が二つに割れてはじけ飛んだ。時堯は奪われた屋久島奪還のための天からの授かりもと感じた。南蛮人が作れるものなら我々にも作れるはず。時堯は鉄砲を譲ってくれと頼むと、南蛮人はお礼として譲ってくれた。それでは申し訳ないとして二千疋(ひき)の永楽銭を贈ると、南蛮人は喜んでさらに一挺の鉄砲を譲ったとされている。ビジネスなのかどうか真偽のほどは定かでない。以後、種子島は鉄砲国産化の号令で島の全機能が回転し始めた。一挺は薩摩の島津義久に献上し、義久はさらに足利将軍に献上したが、将軍は興味を示さなかったと言われている。

美濃の国の刀鍛冶で、自分を世に問うため京に上ったものの、叡山から吹き荒れてきた法難に遭い、堺から法華宗が隆盛の種子島に逃れてきた矢板(やいた)金兵衛親子四人がいた。金兵衛はすぐさま島主や鍛冶職に受け入れられ三職頭人となっていた。



三職とは鍛冶、大工、紺屋をいい、町人ながら名字帯刀、登城を許される名誉ある町方職である。種子島は良質の砂鉄を産出し、刀、鍬、挟みが量産されていた。一方、堺商人との交易や、琉球や遠くは唐、高山国(台湾)とも交流し、異文化の流入もあって島は中継貿易地として栄えていた。

時堯は金兵衛を呼び床の間に飾っている鉄砲を見せ、「これは島の命運を左右する大事な用向き」として鉄砲の製作を頼んだ。金兵衛はしかと受け止め全知全能を傾注して事に当たると決心した。

この使命感が、群雄割拠で荒れた日本の統治につながる道具に、またポルトガル等の南蛮人による植民地化を防ぐことになるうとは夢にも思わなかった。当時、アフリカ、アラビア、インド、インドシナ、中国の沿岸はポルトガルの植民地になっていた。次はマルコポーロで紹介された黄金の国ジパングであったのかもしれない。

金兵衛は鉄砲をじっくり観察し精密に図面化した。刀鍛冶が鉄砲を作る。できることか？良質の鋼(はがね)はある。平たい鋼を筒にする。どのようにして穴のあいた鉄の筒を作るのか。難問である。金兵衛は考えあぐねた末に、例えばちくわを輪切りにしたものを心棒に通し「溶接」することを考案しこれは成功した。鉄の筒はできた。問題は銃底部である。火薬の製造も難題であったが硝石や炭素や硫黄の配合については専従の小四郎が解決しようとしていた。島で自給できるには限界があったが少量は可能であった。

南蛮人は火薬を筒に注ぎ、紙を入れ、その上に鉛の玉を入れる。筒の底にそれらが入り発火装置で起爆させる。筒底が弱ければ暴発する。金兵衛は南蛮銃を観察したが、強靱な底をどう作るのかが最大の悩みとなった。苦肉の策として張り詰法を考案したが弱かった。また、火薬カスが底に残り発火不全の原因にもなった。発砲の度にカスを除く訳でなくたまれば除くのである。導火口の目詰まりの原因にもなった。これが最大の難題であった。南蛮銃の筒底はらせん形で塞ぐ構造になっていて、「ネジ」も初めて日本に伝わったことになる。金兵衛はネジで塞ぐ方法が浮かばなかった。ネジの雌ネジの作り方が分からないままに南蛮銃より見事な「形」のものはできた。屋久島奪還の戦いで実践されたという。しかし、欠陥銃にはかわりはない。底の暴発による負傷者の発生や不発のかずかずである。

(次回最終回)



国家の品格の講演を聴いて(2007年1月10日)

榎部 邦寛

先日、「国家の品格」の著者である藤原正彦先生の講演が松山であり聴きに行った。先生は、現在の我が国の将来を心配されると同時に、本には書けないような過激な発言もされていましたが、さすがに数学者だけあって理論的に話され、同感させられる事ばかりでしたので少し紹介させていただきます。

まず開口一番、「小泉構造改革」の「規制緩和」は間違いだった。「規制緩和」によって弱肉強食となり「格差」が広がった。これは、小学1年生と6年生に喧嘩させるようなもので、6年生が勝に決まっている。「規制」は弱者保護のためにあり、対等に戦わせるにはハンディが要る。このハンディが「規制」である。

又、教育問題についても、「ゆとり教育」というバカなことをやったばかりに学力も低下した。初等教育で大事なの一にも二にも国語。三、四がなくて五に数学。小学校から英語やパソコンを教えるより、国語をしっかり教えることで、真の国際人になるには英語ではなく内容で、英語は単に伝える手段に過ぎない。

日本人は、「改革」や「合理性」の名のもとに、「国家の品格」を捨て金銭至上主義に走った。ホリエモンや村上ファンドのように法律に触れなければ何をしても良いのではなく、弱い者いじめをしてはいけない。卑怯がいけないという道徳心や惻隱の情(相手をあわれむ心)が必要である。これには、民主主義よりも武士道精神であり、「日本には守るべき国柄があり」、「国家の品格」を取り戻すことである。と言った内容でした。

「国家の品格」は、去年230万部売り上げベストセラーとなり、「品格」は流行語大賞にも選ばれた超話題作の著者だけあって、例会をサボってまで行った価値ある講演でした。





第34回2R親善スポーツ大会

レクバレー大会

11月18日西条市総合体育館において、西条ライオンズクラブのホストで2R16クラブ参加によるバレーボール大会が盛大に開催されました。フレンドリーな中にも熱戦が繰り広げられましたが、当クラブは練習の成果の賜物であるチームワークと粘りのある試合運びで優勝こそ逃しましたが、立派な3位で試合を終了しました。試合終了後は西条アサヒビール園でお疲れ様会を行いました。



- | | |
|-----|----------|
| 優勝 | 今治東 L.C |
| 準優勝 | 川之江 L.C |
| 3位 | 伊予土居 L.C |
| 4位 | 東予 L.C |



ライオンズアクティビティ

土居町老人クロッカー大会

11月16日に土居町やまじ風公園グラウンドにて早朝から約100名の参加者で元気に競技を楽しみました、年齢は65歳から80歳前半の方ですが皆さんとてもお元気です。





第7回 伊予土居ライオンズクラブ旗争奪レクレーションバレーボール大会



第7回 伊予土居ライオンズクラブ旗争奪レクレーションバレーボール大会が11月26日に改善センターにて開催されました。土居町内のママさんバレーボールチーム11チームと伊予土居ライオンズクラブ1チーム合計約100名が参加し熱戦を繰り広げました。優勝はピアスチーム、準優勝サーティーズチーム、3位ペパーミントチームでしたが、わがライオンズチームは6位タイと好成績でした、皆さんの日頃の練習の成果ではないかと思われま。体力、健康維持のため来年は尚多くの方の参加をお願いします。12月8日の「お疲れ様会」に多数の参加ありがとうございました・・・好評だったそうです。

(記 石水)

地球の秘密

11月14日13時から土居町小富士小学校5年生を対象に「地球の秘密」の授業が行われ、地球環境問題、エコロジーなどについて子供たちの活発な意見の交換が行われ大切な地球を汚さない意識が更に強くなった。(当クラブは土居町内の学校に同書を提供し地球環境問題について子供たちに学んでもらうよう支援しています)



「地球の秘密」とは坪田 愛華ちゃんという小学6年生の女の子が作者です・・・1991年、愛華ちゃんが小学校6年生の時、環境問題について担任の先生から与えられた課題を得意な漫画で表現し2ヶ月で描き上げた数時間後の未明に小脳出血で倒れ12歳の生涯を閉じました、同書は環境問題を地球としての高い視点から捉え、漫画というわかりやすい手段で解説し子供、大人まで楽しく学べる地球環境問題のバイブルです。





青少年育成講演会

12月14日 13時30分から土居町文化会館(ユースホール)において、四国アイランドリーグを立ち上げたかつてプロ野球西部ライオンズのチームリーダーだった石毛 宏典氏を招き、土居高校生徒約360名を対象に青少年育成の一環として「四国アイランドリーグの挑戦」というテーマで講演が行われました。アイランドリーグの設立の狙いや思いなど約2時間にわたり熱く語られました。講演終了後はサイン会など気さくに生徒たちに語る姿が印象的でした。



* 「四国アイランドリーグ」とは石毛さんが代表を務める株式会社IBLJ(インディペンデント・ベースボールリーグ・オブ・ジャパン 2004年設立)がすべての運営を行う既存のプロ野球とは一線を画した独立リーグです。

ラブリーバー(清掃奉仕)



平成 18 年 11 月 5 日
松山自動車土居I.C 付近の清掃



平成 18 年 12 月 3 日
土居町ふるさと広場の清掃



平成 19 年 1 月 14 日
土居町北野 天王橋付近の清掃



皆様、寒い中お疲れ様です。
雑草が生い茂っているせいもあり道路端には様々なごみが投げ捨てられている状況でした。雑草を刈ればこれほどのごみは、捨てることはないと思いつつ作業をした次第です。みなさん本当にお疲れ様でした。





PR 情報 日野 寿光

“編集後記”



新年あけましておめでとうございます、本年も宜しくお願いします。新年号は10ページになりました、会員皆さんの協力の賜物です。新年号表紙を飾るにふさわしい画像をと思い1月4日に土居町役場の門松を撮影に行ったのですが、飾ってありませんでした、それでは雪景色と思ったのですが辺りに雪はなく結局久万スキー場まで行ってスキーついでに雪景色を撮影しました。しかしやはり地元の景色と思い二ツ岳を表紙に選びました。



青少年育成講演会講師の石毛宏典（ひろみち）氏を囲んで

ちよつと小断

新居浜市で皮膚科ご開業の中山恵二先生提供(駄洒落)

団塊の世代の方はこれから定年になって余生を楽しむ？わけですが、若い頃からタバコを吸ってた人の中には肺ガンになって余生を楽しむどころではない人も多くいらっしゃいます。そのほとんどが右の肺ガンですって！当時吸ってたタバコがなんと「ハイライト」！！

大橋 勝英(いくつかありますので、また紹介します)

伊予土居ライオンズクラブ

愛媛県四国中央市土居町入野 965-1
土居町商工会 2 階
TEL: 0896-74-6235
FAX: 0896-74-1136
E-Mail: doi@lionsclub336a.org
URL: <http://doi.lionsclub336a.org/>



2007 年 1 月号 No.130
発行日:平成 19 年 1 月 24 日
発行所:伊予土居ライオンズクラブ事務局
発行人:ライオンズ情報委員 日野寿光
企画編集:株式会社ウイン・ドゥ